

# 事業報告書

令和4年度

【令和4年4月1日から令和5年3月31日まで】

学校法人 常磐会学園

## 1. 法人の概要

- ① 名称 : 学校法人常磐会学園  
 ② 住所等 : 大阪府大阪市平野区平野南4-6-7  
 電話番号 : 06-6709-3170  
 ファックス : 06-6709-2201  
 ホームページ : <https://www.tokiwakai.ac.jp/aboutus/tokiwakaigakuen>

### ③ 設置する幼稚園名

- 幼稚園の名称 : 認定こども園 常磐会短期大学附属常磐会幼稚園  
 : 幼保連携型認定こども園 常磐会短期大学附属いずみがおか幼稚園  
 : 常磐会短期大学附属茨木高美幼稚園

認定こども園を構成する施設	名称	幼保連携型認定こども園 常磐会短期大学附属 いずみがおか幼稚園	種別	学校法人 幼保連携型認定こども園
				認可等年月日 昭和47年4月1日
	所在地	堺市南区三原台3丁3番1号	種別等	認可等定員 215名 1号認定子ども 55名 2号認定子ども 100名 3号認定子ども 60名
				園長名(就任年月日) 高田 昌代(2019年4月1日)

- 電話番号 : 072-291-0393  
 ファックス : 072-291-4093  
 ホームページ : <http://www.tokiwakai.ac.jp/izumigaoka/>  
 メールアドレス : [izumigaoka-youchien@siren.ocn.ne.jp](mailto:izumigaoka-youchien@siren.ocn.ne.jp)

- ④ 理事長氏名 : おかもと 岡本 かずえ 和恵

※理事11人、監事2人、評議員20人

- ・ 定例理事会 年11回開催(毎月開催、但し8月を除く)
- ・ 定例評議員会 年4回開催(5月・11月・2月・3月)

## ⑤ 全職員の配置

認定こども園  
園長（1名）

教頭（1名）  
主幹保育教諭（2名）  
指導保育教諭（1名）  
保育教諭（11名） 兼任保育教諭（24名）  
専任看護師（1名）  
専任職員（管理栄養士・事務）（2名）  
兼任職員（事務・用務）（2名）  
兼任職員（障がい児補助・預かり保育）（13名）

内科医（1名）  
歯科医（1名）  
耳鼻科医（1名）  
学校薬剤師（1名）  
学校産業医（1名）

調理担当  
栄養士（2名）  
調理師（2名）  
調理補助（4名）  
【自園調理】

## 2. 事業報告（令和4年度いずみがおか幼稚園）

**教育目標** 「温かく安らぐ生活の中で、豊かな感性、好奇心、思考力の基礎を培う」

- ・健康な生活の仕方を身につけ、自分のことを自分でしようとする子ども
- ・自分を大切に、友達も大切にする子ども
- ・ちがいを受け入れ共に育ちあう子ども
- ・よく見、よく聞き、よく考える子ども
- ・心を動かし、やってみようとする子ども
- ・感じたことを豊かに表現し、自分らしくのびのび生活する子ども

### 重点課題

「みんなちがって みんないい 子ども・保護者・保育教諭 認め合いの集団をめざす」

- ① 一時預かり、ふれあいランド、子育てフォーラム参加、土曜日園庭開放等を行い同じ年齢の子どもをもつ地域の保護者が集い、情報交換をしたり、相談したりできる場の提供を行ったことで子育てに対する安心感やリフレッシュにつながった。
- ② 昨年に引き続き、園内研究保育をビデオ撮影した。自分の保育の映像記録を見る、振り返る機会を大切にするとともに、見てもらう機会を通して自分とは違った見方や考え方に触れられ自分の保育の幅を広げられた。また、研究討議はブレインストーミングで行ったことでたくさんの意見が出て学びが深まったと共に、保育教諭のモチベーションや自信アップ、疑問解決につながった。
- ③ 毎日の終礼で報告・連絡・相談を行い情報・意識共有を行った。また、兼任教職員との面談やカンファレンスも行ったことで各部門での問題点や課題が見え環境再構成が出来た。

### 研究テーマ

『共に感じることから始まる子ども理解 子どもと創る生活』

- (1) 「幼保連携型認定こども園としての保育・教育」
  - ① 保護者アンケートから保護者のニーズや本園の課題を教職員で理解し、教育・保育の見直しと再構成につなげた。
  - ② 保護者に対する個別の支援は、地域における小学校や関係機関等と積極的に連携をとり保護者と子どもの関係を援助、修了後も親子関係を見守り安心して生活できるよう支援がつながるようにしてきた。（小学校のカンファレンス会議にも参加・堺市に巡回相談カードの提出）
  - ③ 土曜日園庭開放・いちご組（未就園児）で「集える場」「遊べる場」として保育室や園庭を開放。また、めばえルーム（0歳児）いちご組では先生と一緒に遊ぶ機会をもった。「初めて出会う人と関わる中で子育てについて情報交換する良い機会となった。」と保護者からの声も聞かれた。

- ④ 地域のコロナ状況が落ち着いてきたことで、地域学校連携、地域との連絡会や行事の再開が見られ交流や意見交換が行える場が戻ってきた。

(2) 「園児の生活の充実と安全確保」

- ① 昨年に引き続き園内教育・保育研究の様子をビデオ撮影し行った。昨年の経験をもとに教職員間で保育について話を聞いたり、アドバイスを受けたりする機会がより多くもてるようになったことで、振り返りが深まり保育計画・保育の充実につながった。
- ② 保育等施設で起こる虐待等事故の報道を受け、よりよい教育・保育を「子どもを尊重する」「子どもの人権を擁護する」観点で考える機会をもった。チェックリストを使い自己点検し今一度基本を見直す機会をもった。「こどもがまんなか」の再確認、意識をもてるようにした。
- ③ 子どもの健康の保護、安全を確保する目的で、園庭砂場の土壌分析調査を依頼した。結果、第二種特定有害物質は含まれていないという結果であった。子ども達が安心して遊べる砂場環境が保たれていることが分かった。
- (3) 園内教育・保育研究の記録をまとめ研究誌「あしあとXXVI」を刊行。

**園児数（認可定員 215 名）**

令和 4 年 5 月 1 日現在

歳児	認可定員	認可定員内訳		1号認定 実員	2号認定 実員	3号認定 実員	歳児別 実員合計	組数	実員合計
0歳児	60	11		/	/	50	8	1	180
1歳児		19					1・2歳児混合 3		
2歳児		30							
満3歳児	155	1号定員	2号定員	0	/	0	1	180	
3歳児		55	100	13		25	38		3
4歳児				19		27	46		2
5歳児				12		34	46		2
合計	215	215		44	86	50	180	12	180

**園児確保のためのPR方法**

- ① 堺市の認定こども園のページから本園にリンクするようにし、情報公開を行った。
- ② コンセプトブックの見直しをし、本園の特長がより伝わるよう厳選し記載した。
- ③ 子どもの生活や遊びをポートフォリオにしてホームページで紹介し、園としての子どもの見取り方や教育・保育をする中で大切にしている子どもの姿とその受け止めを知らせた。
- ④ 出来る限りの子育て支援を人数制限、時期を調整する等、新型コロナウイルス感染防止策を講じながら行ったことで本園への興味・関心につながり安心感・信頼を高めることができた。

一時預かり事業（一般型と幼稚園型）、子育て相談（キダーカウンセラー事業）、乳児家庭全戸訪問事業（電話での聞き取り・訪問）、満3歳児入園、未就園児いちご組・めばえなど  
地域子育てフェスタ子育て相談・土曜日地域園庭開放

**入園の方法**

- ・ 1号認定：コンセプトブックや入園説明会を通し、園の教育方針や理念を理解したうえで願書を提出してもらい幼児観察と親子面接を実施した。
- ・ 2・3号認定：区役所で決定後、幼児観察と親子面接を実施した。

## 施設・設備の充実

- (1) 構築物
  - ・ 衝撃吸収人工芝をブランコ、雲梯下に施工
  - ・ ホール裏部に事故防止、不審者侵入防止ゲートの設置
- (2) 管理機器備品
  - ・ 園裏側公園歩道沿いのフェンスに掲示板を設置（広報活動）

## 保育料

対象児	教育充実費 施設整備費	入園受入準備費	基本負担金	教材費	給食費
1号認定こども	50,000円	3,000円	保育料無償	毎月2,050円	毎月3,200円
2号認定こども					毎月4,900円
3号認定こども	0円	0円	所得に応じる	【0歳児】 おむつ代実費 毎月2,050円 【1・2歳児】 毎月2,550円	0円 基本負担金に含まれる

※基本負担金・教材費・給食費は8月も含む。

## その他

- (1) 7月から9月末まで園関係者の新型コロナウイルス感染が多数確認された。この期間の教職員の発症も目立ったが、兼任教職員の協力もあり引き続き2・3号子どもの受け入れ保育の継続ができた。
- (2) 新型コロナウイルス感染者数の動向に合わせ地域行事への参加を広げたことで、多様な人とのかかわりや体験が出来た。  
(三原台中学校3年生SDGsの取り組み、三原台小学校2年生地域探検、三原台小学校1年生・5年生交流会、みはら文化祭り、子育てフォーラム)
- (3) 昨年に引き続きホームページで子どもの生活や行事での様子を知らせる。ホームページを見て他県・他市・海外からの転居者や他園からの転入希望者等の期中入園が多数あった。
- (4) 地域家庭児童相談所、堺市南区子育て支援課、地域学校と密に連携し、個別な家庭支援に力を入れた。
- (5) コンセプトブックの見直しについては、本園の大切にしていること、こだわっている教育・保育について焦点を当てた。
- (6) オンライン当日配信「全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 第13回幼児教育実践学会」にて中村妙子准教授、絵本作家さいとうしのぶ氏と共に、本園教頭伊東桃代が「眠育教育・みんなくってなに？」子ども達との生活の中で、寝ることってどんな風にとらえていますか？基本的な生活習慣の中の「睡眠」をどうとらえていますか？を発表した。
- (7) 堺市「幼児教育実践セミナー」における施設間交流で、保育公開を行い公立・私立の先生方に保育に対するフィードバックをして頂いた。
- (8) 堺アートスタートプログラム（音楽体験プログラム）で、ユーフォニアムを含めた管楽器の生演奏や、マジシャンによるマジックショーを鑑賞し「本物」を体験し興味関心を深めた。
- (9) 年長児と保護者対象に「小学校出前授業」を行う。元公立小学校校長 島居寿之氏を迎え子どもには模擬授業、保護者には小学校進学に向けて講演していただき、小学校進学への期待を膨らませた。